

別紙様式 1

令和 7 年度安浦中学校区研究推進計画

校番 (33) 呉市立安登小学校

校長名 上田 美穂子

1 学校教育目標

ふるさとを愛し、よりよい未来の創り手となる児童生徒の育成

2 目指す児童生徒像

- 自校や郷土に誇りと愛着をもち、地域社会に感謝・貢献する児童生徒
- 様々な人々と協働して、主体的に課題解決に取り組む児童生徒

3 育成を目指す資質・能力（具体の姿）

質・設定した資 能力	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	感謝・貢献
後期	各教科等に関する個別の知識や技能などを確実に身に付けている。	目的に応じて、多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに、論理のすすめ方や表現の仕方などを工夫して、効果的に表現することができる。	課題解決のために、対象に対して自ら働きかけ、進んで挑戦することができる。	地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、郷土の発展に貢献することができる。
中期		目的に応じて、複数の事柄や資料などを関連付け、整理したり再構成したりして、適切に表現することができる。	課題解決のための過程において、対象に対して積極的に働きかけ、進んで挑戦することができる。	郷土の伝統や文化を大切にし、地域社会の一員として貢献を意識して活動に参画することができる。
前期		目的をもって、複数の事柄や資料などについて自分で視点を持ち、比較分類、関連付けてまとめて表現することができる。	目的を明確にして、課題の解決に向けて、見通しをもって計画的に挑戦することができる。	地域のよさを理解し、感謝する心をもって地域と関わる活動に参加することができる。

4 研究主題等

(1) 研究主題

ともに学び合い、主体的に学習に取り組む児童生徒の育成

～安心して学べる環境づくりと「わかる」「できる」授業づくりを通して～

(2) 設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）

本中学校区の児童生徒の課題としては、自己肯定感の低さや不登校児童生徒の微増、そして基礎学力の不足がある。自己肯定感の低さ、不登校の改善を図るためには、安心して学べる環境づくりと、教員や友達に認められ、学校に居場所を感じられるようにしていく必要がある。

基礎学力の向上を図るためには、授業の中で全ての児童生徒が理解できる授業づくりが必要となる。友達と伝え合い、学び合う活動を設定し、すべての児童生徒が自分の考えをもち、他の考えと比較し再構築する取組を大きな柱にして授業づくりを行っていく必要がある。

学校に安心して学べる環境と、「わかる」「できる」授業があれば、主体的に学習に取り組む児童生徒の育成が可能であると考え。

令和 6 年度の標準学力調査（小学校）、全国学力・学習状況調査及び新学社の学力向上 TSP（中学校）による校内と全国との比較は、次のとおりである。

小学校

国 語	知識・技能	思考・判断・表現
A小4年生（標準学力調査）	+ 4. 4	+ 6. 8
A小5年生（標準学力調査）	+ 4. 4	+ 7. 4
A小6年生（標準学力調査）	- 1. 5	- 2. 7
B小4年生（標準学力調査）	- 5. 8	- 9. 2
B小5年生（標準学力調査）	- 0. 4	- 7. 5
B小6年生（標準学力調査）	- 8. 7	- 10. 4

算 数	知識・技能	思考・判断・表現
A小4年生（標準学力調査）	+ 9. 9	+ 18. 4
A小5年生（標準学力調査）	+ 14. 6	+ 16. 4
A小6年生（標準学力調査）	+ 11. 7	+ 14. 7
B小4年生（標準学力調査）	- 8. 0	- 4. 7
B小5年生（標準学力調査）	- 2. 2	- 4. 0
B小6年生（標準学力調査）	- 5. 8	- 4. 4

中学校

国 語	知識・技能	思考・判断・表現
7年生（学力向上TSP）	- 8. 0	- 5. 0
8年生（学力向上TSP）	- 2. 0	- 4. 0
9年生（全国学力調査）	- 1. 9	- 4. 1
数 学	知識・技能	思考・判断・表現
7年生（学力向上TSP）	- 18. 0	- 8. 0
8年生（学力向上TSP）	- 5. 0	0
9年生（全国学力調査）	- 3. 9	- 9. 3

小学校、中学校の各教科において、全国との差があり、基礎学力の定着が必要であると考え。

令和6年度 全国学力・学習状況調査（児童生徒質問紙）（6年生，9年生），令和6年度児童生徒学習意識等調査 児童生徒質問紙（5年生，8年生）より，自己肯定感に関する項目の県平均との差は以下のとおりである。

	自分には良いところがある	よさは認められている
A小5年生	+ 14. 4	+ 16. 2
A小6年生	+ 15. 9	+ 10. 1
B小5年生	- 1. 1	+ 8. 3
B小6年生	+ 2. 8	+ 3. 6
8年生	+ 4. 3	- 6. 7
9年生	+ 1. 8	- 0. 3

(3) 研究仮説

全ての児童生徒が安心して学べ、認められる環境をつくり、授業の中で「わかる」「できる」と実感できる授業づくりを行うことにより、学ぶことの楽しさを感じ、主体的に学習に取り組めるようになれば、中学校区全体の基礎学力を上げることができるであろう。

5 研究内容

(1) 「学びのすすめ」による生活づくり

- ア 学習規律の徹底
- イ 自己管理能力の育成

(2) 「わかる」「できる」授業づくり【学力向上部会】

- ア 基礎学力を定着させるための手立ての工夫
 - ・授業の始めの中で、基礎学力を定着させるための時間を確保する。
(フラッシュカードやドリル学習など)
- イ 思考を深める学び合い
 - ・「比較する」「分類する」「関連付ける」の思考カードを用いた授業づくりを行う。
 - ・「思考過程」を意識した授業づくりを行う。

安浦中学校区における「学び合い」(全教科共通の「思考過程」)

- ① 理由や根拠に基づいた個の考えをもつ。
- ② 自分の考えと友達の考えを比較・分類・関連付けながら思考する。
- ③ ペア学習やグループ学習において、①②で練った考えを広げたり深めたりする。(必要感のある対話)
- ④ 個で考えを再構成する。

(3) 主体的・対話的に深く学ぶ基盤づくり(居場所・つながりづくり)【「心と体」育成部会】

- ア 「感謝・貢献」の資質・能力を育む学校行事・地域貢献活動及び生徒会・児童会活動
 - ・ICT機器を活用した小中連携
 - ・児童生徒の活躍する場の設定
- イ 学級活動の充実
 - ・構成的グループエンカウンターを取り入れた居場所・つながりづくり

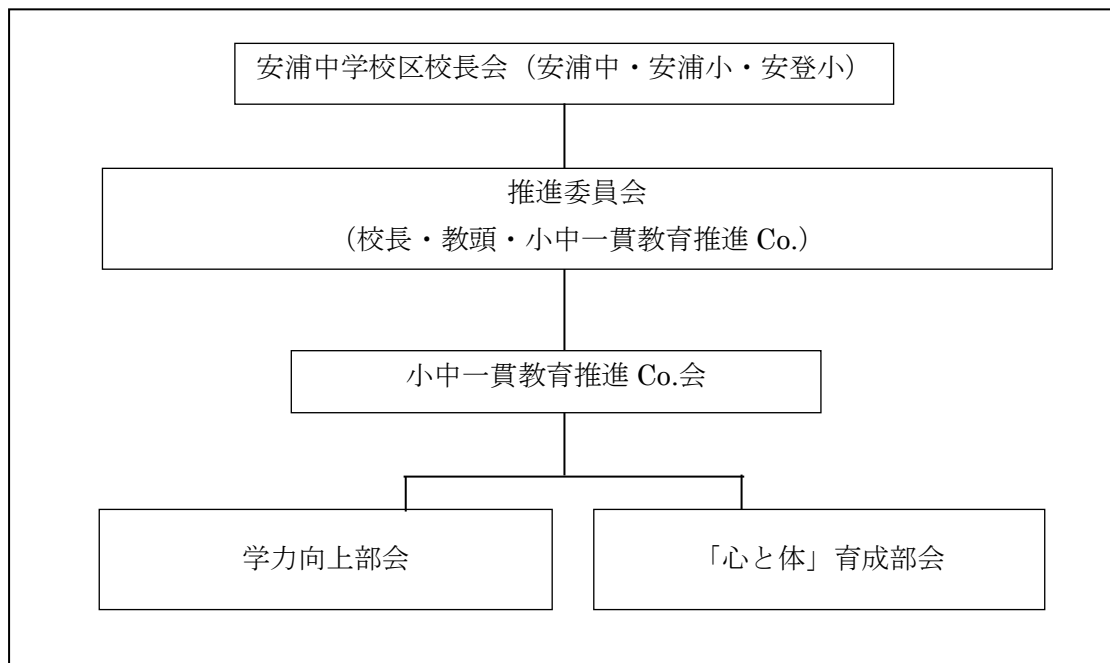
6 検証について

検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
① 授業の中で、「分かった」「できた」と感じたか。	児童生徒アンケート(3～9年生)	肯定的回答をした児童生徒の割合(4段階評価)	97.4%	100%
② 学び合いにより思考は深まったか。	児童生徒アンケート(3～9年生)	肯定的回答をした児童生徒の割合(4段階評価)	95.2%	100%
③ 学校に行くのは楽しいと感じているか。	児童生徒アンケート(3～9年生)	肯定的回答をした児童生徒の割合(4段階評価)	89.2%	100%
④ 基礎学力は高まったか。(知識・技能)	標準学力調査(4～9年生)	全国平均との差	-1.5	0
⑤ 思考力・判断力・表現力は高まったか。	標準学力調査(4～9年生)	全国平均との差	-0.5	0

※現状値については、不登校児童生徒のものは含まれていない。

7 推進体制等

(1) 推進組織



(2) 一部教科担任制実施計画

ア 乗り入れ授業等（中→小）

- ・食に関する指導（各学年 年1回程度）
- ・単元を決めた乗り入れ授業（第6学年 年1回程度）

イ 小学校教科担任制等

- ・安浦小 第3学年（書写），第4学年（理科），第5・6学年（理科・図工）
- ・安登小 第3～6学年（理科・音楽），第3・6学年（図工）

8 推進計画（赤字が令和7年度合同研修・推進委員会等予定）令和7年3月12日現在

月 日	内 容
4月 7日	第1回推進委員会（推進計画・研修計画検討合同研修会の持ち方） 15：30～16：35
4月21日	第1回合同研修会（推進計画・研修計画確認） 15：00～16：35
5月28日	小中一貫教育コーディネーター会①
6月 4日	第2回推進委員会（第2回合同研修会の持ち方）
6月17日	第2回合同研修会（安浦小学校授業研究）
8月 5日	小中一貫教育コーディネーター会②
8月21日	第3回推進委員会（第3回合同研修会の持ち方）
8月25日	第3回合同研修会（全国学力調査分析等）
10月14日	小中一貫教育コーディネーター会③
10月21日	第4回推進委員会（第4回合同研修会の持ち方）
10月28日	第4回合同研修会（安浦中学校授業研究）
1月21日	小中一貫教育コーディネーター会④
1月26日	第5回推進委員会（第5回合同研修会の持ち方）
2月 5日	第5回合同研修会（研究のまとめ 活動・部会報告 次年度に向けて）
3月10日	小中一貫教育コーディネーター会⑤
3月16日	第6回推進委員会（次年度の推進の方向性）

9 その他

- ・年2回の児童会・生徒会によるあいさつ運動 10月14日（火） 2月3日（火）
- ・年2回の児童会・生徒会によるオンラインによる打ち合わせ9月，1月
- ・小中合同行事（地域みちクリーン活動）10月27日（月）
- ・3月 小中一貫教育だよりの発行